

## 第9回「第5次福岡市一般廃棄物処理基本計画」策定作業部会議事録

1 日 時 令和3年2月22日（月）10：00～10：50

2 場 所 福岡市役所 15階 1502会議室（Web会議）  
（福岡市中央区天神1丁目8番1号）

### 3 出席者（敬称略）

・作業部会委員

	氏 名	役 職 等
部会長	小 出 秀 雄	西南学院大学 経済学部 教授
	平 由以子	特定非営利活動法人 循環生活研究所 理事
	田 中 綾 子	福岡大学 工学部 教授
	中 山 裕 文	九州大学大学院 工学研究院 准教授
	松 藤 康 司	福岡大学 名誉教授

### 4 会議次第

1 開 会

2 議 事

（1）今後のスケジュールについて

（2）循環のまち・ふくおか推進プラン原案について

3 閉 会

### 5 議事録

議事（1）今後のスケジュールについて

議事（2）循環のまち・ふくおか推進プラン原案について

#### 【事務局】

（資料1、2、3について説明）

#### 【部会長】

ありがとうございます。議事の1つ目は今後のスケジュールですけれども、この作業部会として計画の策定に向けた議論は、今回が多分最後になるかと思います。

2番目の議事の「循環のまち・ふくおか推進プラン」の原案について、委員の方から事前にいただいた、ご意見は反映した内容になっているのでしょうか。

#### 【事務局】

完全に反映できていないところもありますけれども、できるだけ反映させたものになっ

ています。

**【部会長】**

分かりました。何かご質問とか追加のご指摘があったら、委員の皆さま、どうぞよろしくをお願いします。

**【委員】**

全体的に文量が多いから、概要版を作成するというのは大賛成です。全体を淡々と同じトーンで述べているように見えるんで、メリハリがあるレイアウトになるようにしたほうがいいと思います。

例えば 19 ページですが、ここのところで、今回の計画は、計画期間は 10 年で、5 年毎に見直すところを強調したほうがいいかなという感じがしたんです。5 年毎に具体的な施策を定めて、第 1 期実行計画、第 2 期実行計画にするというところは強調したほうがいいかなと。そうしないと淡々と、前と同じだなというふうに見えてしまうので。経済状況とかコロナの問題とか震災とかいろいろありますので、非常に予測しにくくなったということで、計画の構成が変わったんだというところを見せたほうがいい。

それから次のテーマのところも、これは市民の皆さんへの非常に大事なメッセージの 1 つですから、ここを目立つように。福岡市はこういうことをテーマとして見えていますよということを目立つ色彩にしたほうがいいかなと。後半に、古紙、プラスチックごみ、食品廃棄物の重点 3 品目の施策を書いていますよね。そのところも同じ色のトーンになっていて、それから超高齢社会に対する新しい施策、これもここがポイントだというのが冊子を見て分かるようにしていただきたいです。

例えば 40 ページの「重点 3 品目に関する施策」というのが淡々と書いてありますけれど、ここもぱっと一般市民の方が見て、今回のプランというのはここに重点を置いていることがわかるようにして、それぞれの施策に関するところにもまた目がいくように、ちょっとレイアウトしていただけたらという気がしました。

それと、多くの施策をあげていますが、新規施策なのか継続施策なのかというのが書いていない。だから、新規の施策と継続強化する施策の違いが分かるように、これもレイアウトの方法で変更できると思いますので、ちょっと変更していただくとだいぶ違うかなと。

見た感じの情報が多過ぎて、これを読み込むというのはかなり大変なんです。例えばコラムのところは、四角い枠の角を落として少し見やすくなるように。

そうしないと、コラムというよりも何か前の表と同じで目が行かない可能性もありますので、その辺りのメリハリを付けていただくと少し読者にも見やすくなるのかなというのが全体的な意見です。

**【部会長】**

ありがとうございます。レイアウトとか見やすさの追求ということですけど、事務局よろしいですか。

### 【事務局】

わかりました。施策について、新規・既存の並びでというお話もあるんですけども、一応、発生抑制からリサイクルにつながる流れで施策の順番を記載しており、おおむねそういう形になっております。新規・既存でやると、体系的に並びが変わりますので、そこはうまい表現の仕方をもう少し検討させていただければと思います。よろしく願います。

### 【委員】

19 ページのところですけど、先程委員が言われたように、結構ボリュームが多くてどこを見ていいかわからない印象があります。19 ページのテーマのところですけど、ここは非常に大事なところかなと思っていて、ここはあまりにもあっさりしている気がするんです。

例えば、その中の「福岡市にかかわる全てのステークホルダーの参画を目指します」と書いてあるところで、一番大事なのは「全てのステークホルダーの参画」というのが大事なところだと思うんです。その文字を大きくしたり、括弧付きで書くとか、その次の文章で言えば「安全で安心な生活環境を受け継ぐ」といった、重要なところだけ色を付けるとか括弧付きで少し字を大きくするとか、何か工夫が要るんじゃないかなと思ったんです。

そのままざっと読んでしまうと頭に残らないので、印象に残るにはそういうところを強調しないといけないから、ここは大事なかなと思ってます。

それで同じように 3 つ目で言えば、「地域の活力が最大限発揮される都市」というところは、循環というのが見えてこないの、「循環の都市」とかいうキーワードを入れるとか、そういった形で言いたいことがそのキーワードの中に全部埋め込まれる形で強調するというのが、私は必要なかなと思いました。

あと「私たちにできること」とせっかく書いてくださっているんですけど、埋もれてしまって、すごく淡泊になってしまって、全然見えないんですね。ここが一番大事なかなと思ったりするんです。コラムより大事なかなと思ったりしているので、そこが強調できるようにしたほうがいいのかなと。一般市民が見るとなると、多分この辺りかなと思ったりしています。

### 【部会長】

そうですね。

### 【委員】

そこが目立って、興味がある人は中のいろんなところを見たりするので、まず第一に見るとすればこういうところだと思いますので、そこがはっきりわかるようにしてほしいなと思います。

あと、前も申し上げたんですけども、コラムの文章が長い、以前よりも短くして下さっているようには思うんですけども、まだ長いかなという気がします。

きちんと説明しなきゃいけないから、文章も多分長くなるんだろうなと思いますけど、やっぱり読み疲れるかなという気がします。コラムって短くてもいいんじゃないかなと思

うので、そこら辺は短くしたほうがいいかと思います。

【部会長】

ありがとうございます。コラムのボリュームがあるというのがありますけど、先ほどご指摘があったのは、私たちにできることのところですね。そこを強調とかそこだけ取り出して大きくしていただいて、何ページか再構成するところがあると思いますけど。

あとは環境局はキャラクターがいっぱいあるので、キャラクターをもっといろいろ使ってみてはどうかと。今はモッテコちゃんぐらいしか出てないですけど、このキャラクターのデザインは環境局の方がされているんですか。

【事務局】

過去に委託をかけて募集したものですけれども、見せ方を含めて検討したいと思います。ありがとうございます。

【部会長】

たまたま水道局の仕事をしています、水道局はキャラクターは1つなんですけど、自分たちでアレンジして使われているので、結構分かりやすいんです。そのキャラクターに何かいろいろさせるような感じで。だから環境局のキャラクターもいろいろアレンジされればいいんじゃないかなと思います。

ほかはいかがでしょうか。

【委員】

キャッチコピーと同じなんですけど、今回の新しい部分をもうちょっとインパクトのある出し方ができませんか。今回の数値目標でどれくらい減らすかというところなんかは、もう少しこれくらい減らさないといけないとか、あるいは2000何年には何割まで目標達成みたいな、何かそういう数値が全然入ってこないんです。あれもしないといけない、これもしないといけないという雰囲気に見えて、ちょっと何かそういうところが見えてこない。

昔は、「1人何g減らそう」とかそういう数字がありましたよね。今回は例えば、3万5000トン削減するということがやはり市民に分かるようにしないとけない。逆にいえば、1人に直せば10gとか20gになるかもしれませんけれども、何かそういうのが全部読まないが入ってこないような感じがしますので、その辺が概要版を作るとかしないと、頭に入らないかなと。

先ほども言いましたように、重点品目を3つ書いていますけれども、「今回の重点目標は古紙とプラスチックごみと食品廃棄物です」というのを最初に見せて、じゃあ具体的にこうしますというのが市民にとっては記憶に残るかなという感じがします。

【部会長】

ご指摘ありがとうございます。グラフ自体が、基本的に忠実に掲げているという印象なので、下のほうに矢印を向けて、3万5000トン減らすインパクトを出したらいいのかなと、

私も思います。

#### 【委員】

環境省が去年、生ごみの処理費用のことで、日本の全体のごみ処理費用が 2 兆円で、そのうち 1 兆円が生ごみ由来で、理由は水分が 80% であることを発表してから、中央のほうでは生ごみを資源化しないといけないという風潮が急速にこの半年で変わってきているんです。

環境省の食ロスのプロジェクトの中に、私も推薦で入って、食ロスのプロジェクトを立ち上げることになっているんですけど、「暮らしを見直す変革のためのアクション」という感じで、循環のコンポストというところを大きく取り沙汰されています。こういうふうな流れに結構急速になってきているんです。

それでこの福岡市の新たな計画が、5年に1回の見直しということであれば、もうちょっとちゃんと生ごみのほうを位置付けていただいて、今の内容は 34 ページの家庭から出るものは段ボールコンポストを普及させて、菜園講座や一人一花運動との連携しか見えないので、すごく消極的に見えるし、だいぶ何か遅れた感じがしているんです。

結構、時代って変わってきてますし、SDGs の今度グローバルフォーラムというのにも出て、日本の代表の 1 人になって事例発表するのは、照葉とか美和台とか屋上でしている天神とかのコミュニティを巻き込んだプロジェクトの話で、地域でそういった取り組んだことで、共助を強めるとかそういったことがすごく評価されているんです。

なので、例えば超高齢化のところも、美和台でしている共助タイプの生ごみを減らすプロジェクトとかも環境省の SDGs のモデル事業として、先週も世田谷とか北九州からも視察に来られていて、全国から注目をされているんです。福岡市のお膝元では、よく分からないみたいな状態になっているので、せめてもうちょっと生ごみの循環とコミュニティで解決するみたいな文脈を出してほしいなと思います。

京都市のほうとかも、大々的に食ロスプロジェクトをプロジェクト化するので、生ごみの資源循環というところにも大きく切り込んでくるというのが分かっている、ぜひ政策のほうにもうちょっと生ごみのほうを出してほしいなというのが私の意見です。

#### 【部会長】

ありがとうございました。この点に関してはいかがでしょうか。

#### 【事務局】

ありがとうございます。委員が言われるとおり、家庭の生ごみに関する施策について、今のところ 34 ページにある生ごみリサイクル促進事業だけになっています。具体的にどういう取り組みができるのか、言われるとおり、コミュニティとか共助を中心とした取り組みというのが、地域にとっては非常に重要であるというのはもちろん認識しております。

ただ、先ほど高齢化の中の説明資料の中でも、資源物の回収自体がそもそも難しいと言っている地区も結構ありますし、そういった高齢者の方もおられます。ただ、美和台のやり方みたいところは非常に参考にはなります。そういう横展開であるとか、そういったものを施策の中で打ち出していくことは重要だと思います。

文言が足りないところは確かにそのとおりだと思いますので、関係課と調整させていただいて、書きぶりは考えていきたいと思います。

【委員】

ありがとうございます。このところ、食ロスの中には生ごみ循環をきちんと環境省のほうでも位置付けという形になってきていて、多分私も環境省のほうのプロジェクトのリーダーとかになっていくと思うので、ぜひ福岡市のほうでも位置付けしてもらったと思っています。ありがとうございます。

【委員】

今の意見、大賛成です。ただ、委員の思い入れと市の思い入れが必ずしもマッチングしていないんですね。だから、先程具体的に委員がこういうことは評価された、美和台はこういうことをやっているとか、挙げられましたよね。そういう事例をラブアースと同じように、コラムか何かを使って説明されるとそこに目がいくと思うんです。

そうしないと市民の方もあまり知らないと思うんです。まだ情報発信として不十分だから。これだけテレビなんかでSDGsとかいろいろ宣伝するような中で、やはり福岡市としてはこういうことを既にもうやっているんだというのを頭出ししたほうがいいんじゃないかなと思うんです。

【委員】

そうですね。福岡市を飛び抜かして、国や国際的に評価されているので、今、他都市と一緒に事業をやり始めているんですけど、「じゃあ福岡市はどうなっているの？」というふうに必ず聞かれるんです。

【委員】

新計画策定というせっかくのチャンスですから、少しコンパクトにまとめていただいて、国内外で注目されている部分を少し紹介したらいいんじゃないかと思うんです。

要するに、生ごみは減らさないといけないというのは、別に福岡市だけの問題じゃなくて全国的な話です。だから、なかなか難しいんですけども、全然やっていないじゃなくて、もう既に少しずつ動き始めているところがありますから、そういうのが分かるように発信されたらいいんです。そこに、もしその情報を知りたいければ、皆さんのアドレスを入れておけば、今だと結構コンタクトしてくる人たちもいるんじゃないかと思うんです、市民の中にも。

【部会長】

なかなか難しいですね。組織とそれ以外の個人とか団体でやられるというところがずれるのはあることなので、どこまで組織としての計画として出すかというのは、難しい問題だと思います。

【委員】

今のことに関連するんですけども、福岡市は環境行動賞で、賞を贈ったり、いろんな支援をされていますよね。地域の幼稚園のコンポストを表彰したりとかされていますので、そういった面ではデータというのは結構お持ちではないかと私は思っています。

そういった環境行動賞とかそういうプロジェクトへの支援とか、そういうほうに力を入れてやることも福岡市として入れたらどうかなというふうに思います。

【事務局】

わかりました。

【委員】

今回の議論に関しては、皆様のご意見に基本的に大賛成です。

1点だけあるのは、先日プラスチック資源循環促進法案が出されまして、今後、小規模事業者のプラスチックごみも自治体で回収できる仕組みを作るということが書いてあったと思うんですが、それを多分、今後取り組んでいかないといけなくなると思うんです。これまで想定していなかった課題というページがありましたが、あそこに小規模小売店からのプラスチックごみも検討するみたいなことを書いてはどうかなとは思っています。

具体的には、その法律が提案された段階でどうなっていくかってよく分からないと思うので、そんなに書けないと思うんですけど、どこかに「プラスチック資源循環促進法の動向を見ながら、事業系のプラスチックごみも検討する」みたいなことを書いていけば、今後スムーズに進むんじゃないかなと思うんです。

【委員】

今の委員の意見には大賛成です。天神ビッグバンを市で進めていますよね。それで前から言っていたんですけど、そこにはいっぱい小売店が出るわけですが、小規模のテナントが。そこに施策を打つのがなかなか難しい。だけど今回の場合は、これから10年先の計画ですので、そういう面では、今、福岡市内が大きく変わろうとしている中で、こういう施策としてはいいんじゃないかなと思うんです。

そうしないと「減らそう」と言っているけれども、また5年ぐらいやって「やっぱり駄目だった」と言われそうな感じがするので、ちょっと気になっているんです。ぜひ検討していただけたらと思います。

【部会長】

たまたま私はエコ検定というテキストを授業で使っているのですが、1月末に新しいやつが来て、前のやつとずっと見比べているんですけど、SDGsのページが増えたというのがありますけど、資源循環のページが4ページぐらい増えたんです。食ロスとプラスチックの件で増えています。

だからそういうエコ検定テキストみたいなレベルでもだいぶ変わっているんで、その辺もちょっと踏まえつつ、このところを完成させていただきたいなと。ほか、いかがでしょうか。

**【事務局】**

プラスチック資源循環法について一言よろしいですか。今、法案が国会に提出される予定となっております。中身についての概要についても把握はしております。プラスチック資源循環の基本は、発生抑制、リデュースであるというのは間違いないことかと思っておりますので、そちらのほうはしっかり取り組んでいく。

法案の中身がまだ確定しておりませんので、その中身を踏まえた上で、原案策定までにはまだちょっと時間がありますので、その中でどういうふうに進んでいくかというのは検討させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

**【部会長】**

ありがとうございます。とりあえず、計画の策定に向けた議論は一応今日で終わりにはなるわけですが、原案の作成リミットというのは3月末ぐらいですか。何かあったら反映できる期限はいつ頃まででしょうか。

**【事務局】**

循環型社会構築部会を3月末に予定していますので、その前までにはと考えています。

**【部会長】**

またいろいろと意見が出ましたが、またアップデート版みたいなのができましたら、お送りいただくということでもよろしいでしょうか。

**【事務局】**

そう考えております。よろしくお願いいたします。

**【部会長】**

分かりました。追加で意見があれば個別にご連絡をお願いするというので、本日の議事は以上となります。進行を事務局にお返しいたします。

**【事務局】**

小出部会長、委員の皆さま、ありがとうございました。これで第9回第5次一般廃棄物処理基本計画策定作業部会を終了いたします。

今後の作業部会につきましては、スケジュールでも申し上げたとおり、パブリックコメント実施後の7月に第10回作業部会を予定しております。その前に循環型社会構築部会もありますので、そういった日程調整もまた随時ご連絡を差し上げたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。本日は長時間にわたり、ありがとうございました。